

## 2 原水及び給水栓の水質概要

札幌市の水源は、石狩川水系豊平川（藻岩、白川、定山溪浄水場）、新川水系琴似発寒川（西野浄水場）、星置川水系星置川・滝の沢川（宮町浄水場）である。

このうち、豊平川は、その98%を担う最も重要な河川で、この上流域には豊平峡ダムと定山溪ダムがあり、その集水域の大部分が国立公園や国有林野内であるため、水質的には良好な環境にある。しかし、同流域には休止した鉱山の廃水処理施設、定山溪温泉街、定山溪水再生プラザ（下水処理場）などの施設が存在することから、突発的な水源汚染事故の発生が懸念される。

琴似発寒川は、市街地を流下しているため、取水場に至るまでに汚染を受ける可能性がある。

水道局では、毎日の水源パトロール、水源水質連続監視装置の設置、河川工事事業者への協力要請などにより事故の早期発見、未然防止を図っている。

また、水源流域住民へのパンフレットの配布や地域住民による河川敷地の清掃事業への積極的な参加、水源となっている河川を自由使用する方に水源保全の協力を呼びかけるなど、水質保全の啓発を図っている。

### 原水水質の概要

令和5年度の豊平川の河川流量（藻岩ダム地点の水量）は、平均  $27.3\text{m}^3/\text{秒}$ （=日平均 236 万  $\text{m}^3/\text{日}$ ）となり、令和元～令和5年度の5年間の平均値  $23.2\text{m}^3/\text{秒}$ （=日平均 201 万  $\text{m}^3/\text{日}$ ）より18%程度多い状況であった。融雪による河川流量の増加が4月から6月まで見られた（図-1）。

各浄水場の原水水温は例年並みの月変動を示した。また、濁度及び全有機炭素(TOC)の量については、全体的に低く推移したが、降水の影響を受けた藻岩浄水場は11月に、白川浄水場は9月と11月に濁度が他の月よりも大幅に上昇した（図-2～図-4、図-6）。

定山溪温泉街の豊平川河床等からは温泉水が湧出しており、この影響を受けている藻岩浄水場及び白川浄水場の原水ではヒ素濃度が高く（図-7）、河川流量が減少した月には、藻岩浄水場原水で  $0.022\text{mg/L}$ 、白川浄水場原水で  $0.050\text{mg/L}$  を記録している（図-5）。

藻岩浄水場及び白川浄水場では、7、8月を中心に、西野浄水場では6月から1月にかけて原水にカビ臭が発生することがあり、粉末活性炭による処理で対応している。

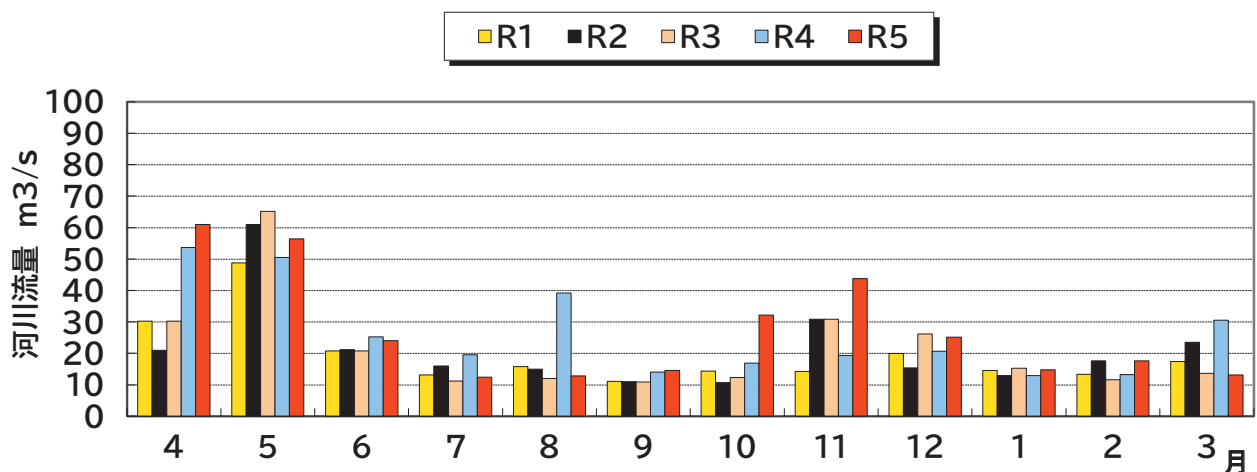


図-1 豊平川の河川流量(月毎の平均値)

# 令和5年度原水水質の月変化（水質管理センター測定）

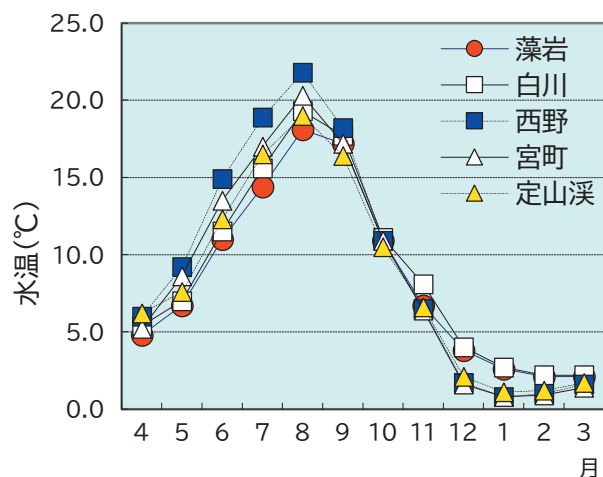


図-2 水温

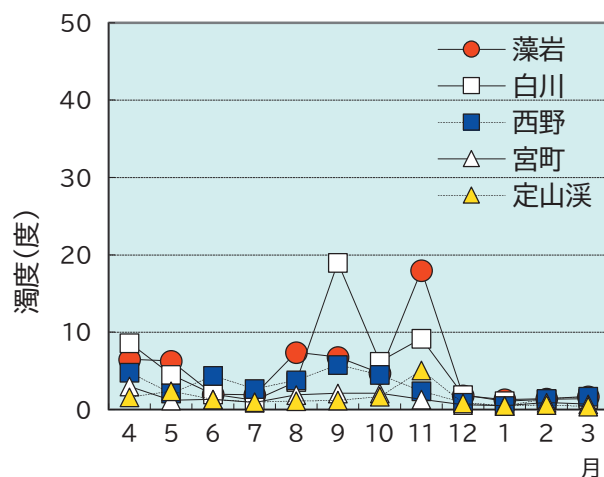


図-3 濁度

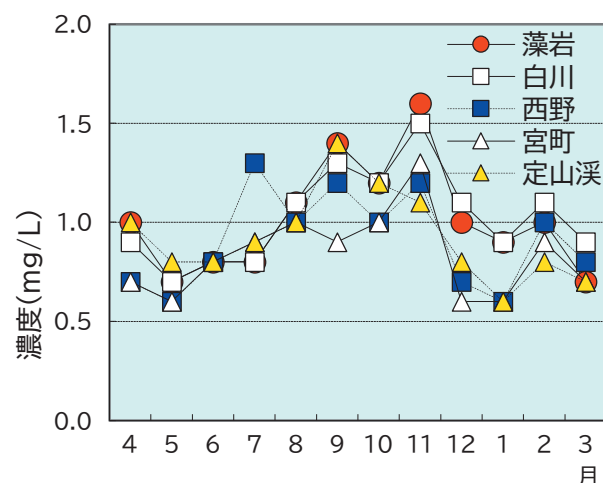


図-4 有機物(全有機炭素〔TOC〕の量)

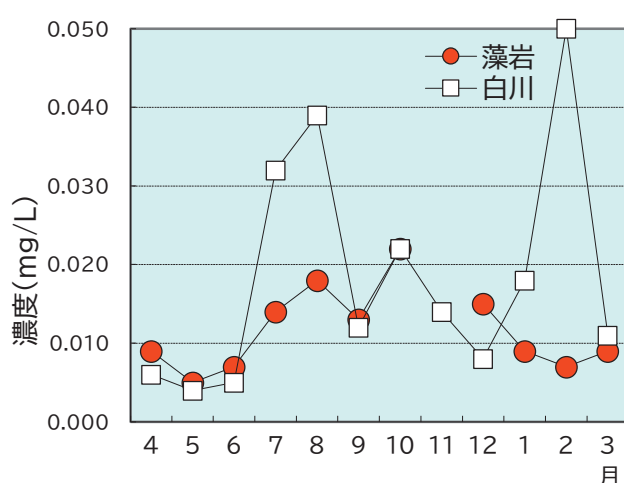


図-5 ヒ素

## 過去10年間の原水経年変化（水質管理センター測定）

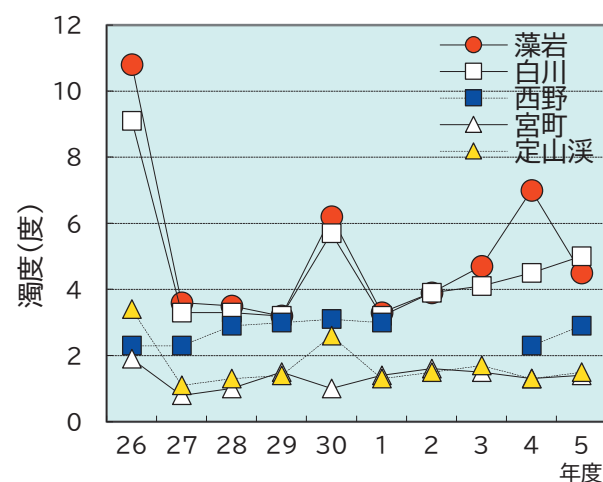


図-6 濁度

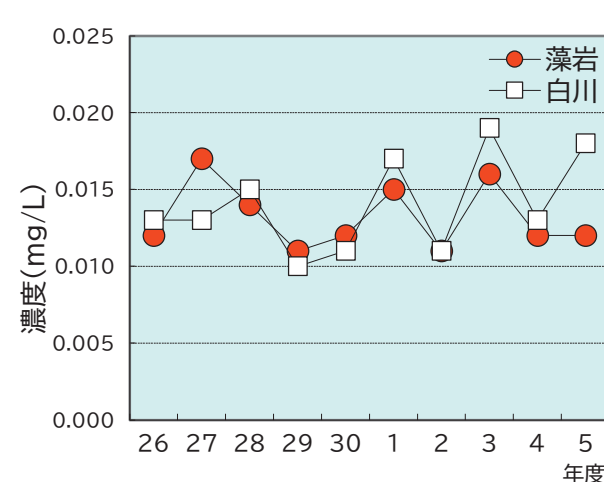


図-7 ヒ素

## 給水栓水質の概要

令和5年度の給水栓水質は、水質基準項目及び水質管理目標設定項目のうち、腐食性(ランゲリア指数)を除く全ての項目において水質基準及び水質管理目標を満たしており、安全であることが確認できた。

水温については例年並みの月変動を示した(図-8)。

ヒ素及びホウ素については、定山溪温泉地区の河床等から湧出している温泉水に含まれているため、その影響により、藻岩浄水場及び白川浄水場原水の濃度が高めの傾向がみられる。

ヒ素は、浄水処理で大部分が取り除かれ、藻岩及び白川浄水場のヒ素濃度は基準値 0.01mg/L に対してそれぞれ 0.001mg/L 未満～0.004mg/L、0.001mg/L 未満～0.004mg/L であった(年平均は藻岩、白川ともに 0.002mg/L、図-9)。

ホウ素については、藻岩及び白川浄水場で、基準値 1.0mg/L に対し 0.1mg/L 未満～0.4mg/L であった(年平均は藻岩、白川ともに 0.2mg/L、図-10)。

有機物(全有機炭素[TOC]の量)は、基準値 3mg/L に対して 0.3mg/L～0.9mg/L であった(図-11)。

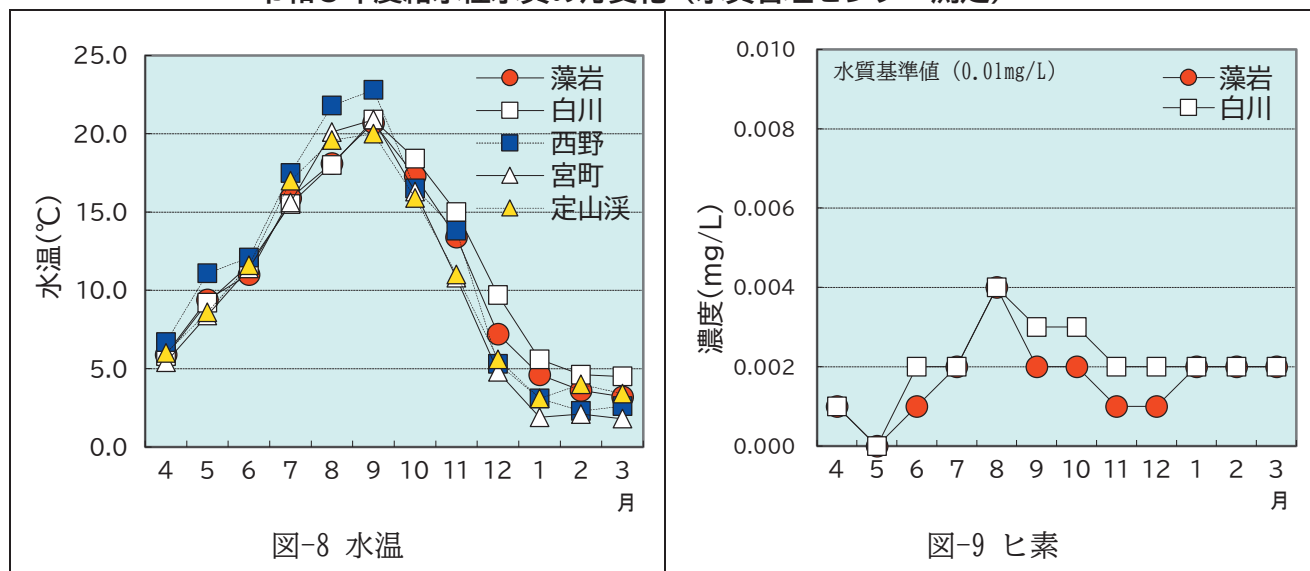
トリハロメタン類の各浄水場の濃度は、水温の上がる時期に上昇する傾向が見られ、総トリハロメタン濃度は基準値 0.1mg/L に対して最大が白川浄水場で 0.030mg/L であった(図-12～16)。

カビ臭に関連する項目のジオスミンは、基準値 0.00001mg/L に対して 0.000001mg/L 未満～0.000003mg/L であった(図-17)。2-メチルイソボルネオールは通年で定量下限値未満であった(図-18)。

水質基準項目以外では、水質管理目標設定項目の農薬類については、札幌市の農薬使用状況から52項目について検査したが、すべての項目において定量下限値未満であった。また、放射性物質(放射性セシウム)についても全て不検出であった。(なお、農薬類、放射性物質は配水を検査した。)

このほか、「おいしさ」に関わる項目については、全ての浄水場で目標値を満足していた(表1)。

令和5年度給水栓水質の月変化(水質管理センター測定)



※ 定量下限値未満の結果は「0」と表示

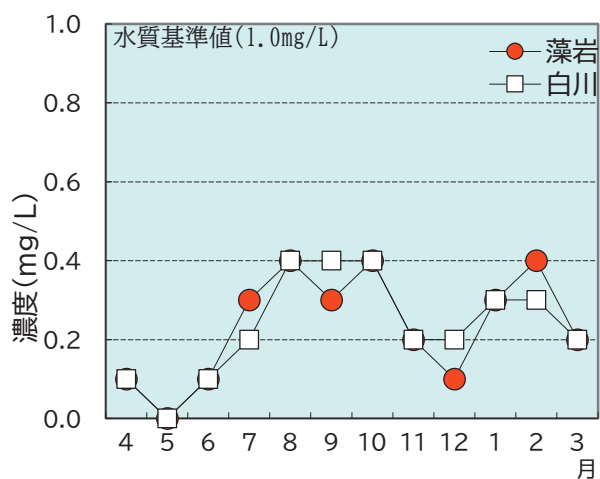


図-10 ホウ素

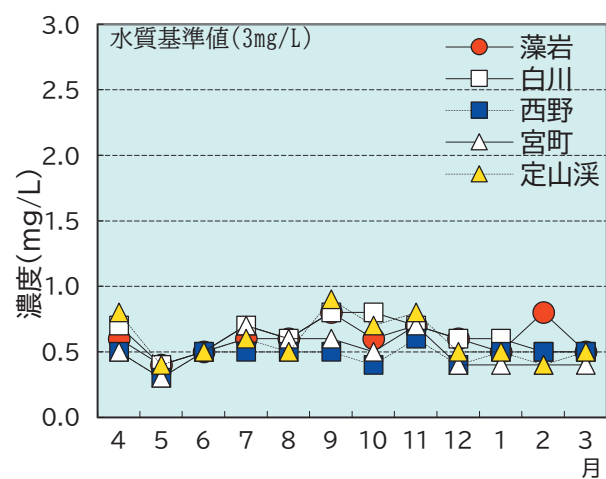


図-11 有機物(全有機物炭素〔TOC〕の量)

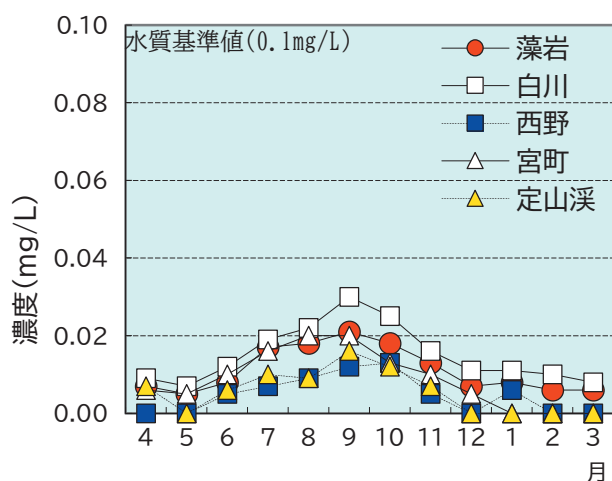


図-12 総トリハロメタン濃度

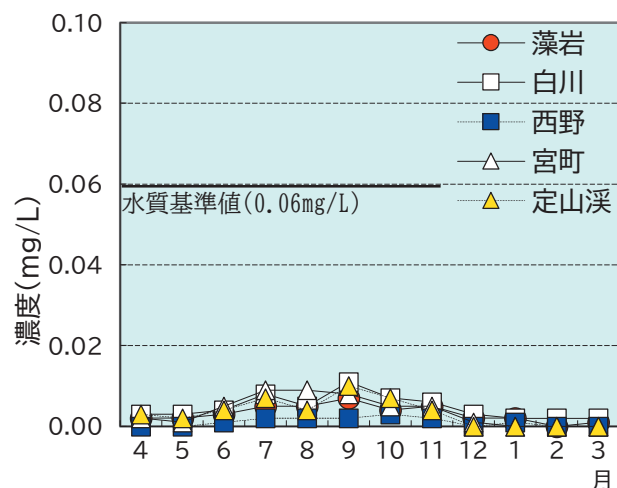


図-13 クロロホルム

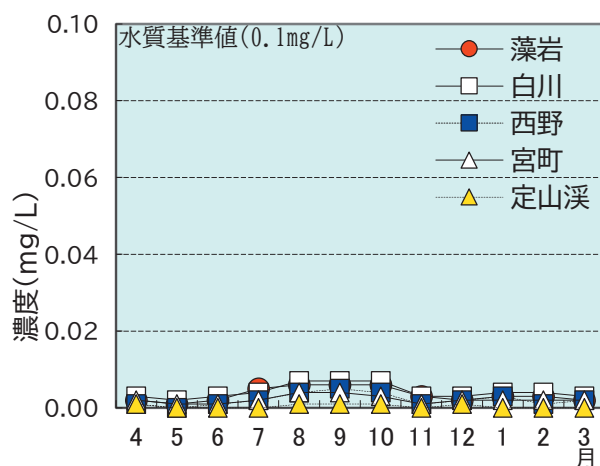


図-14 ジブロモクロロメタン

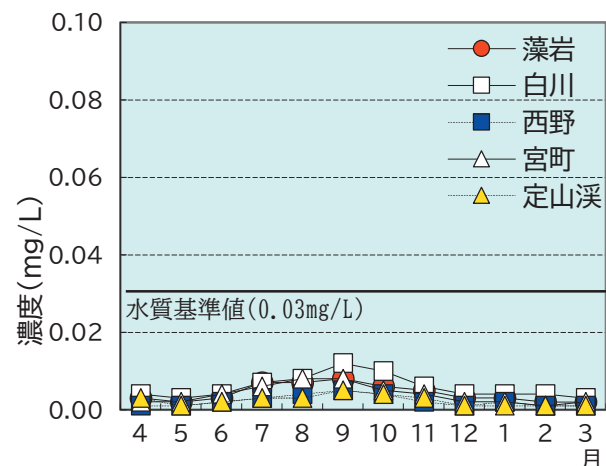


図-15 ブロモジクロロメタン

※ 定量下限値未満の結果は「0」と表示

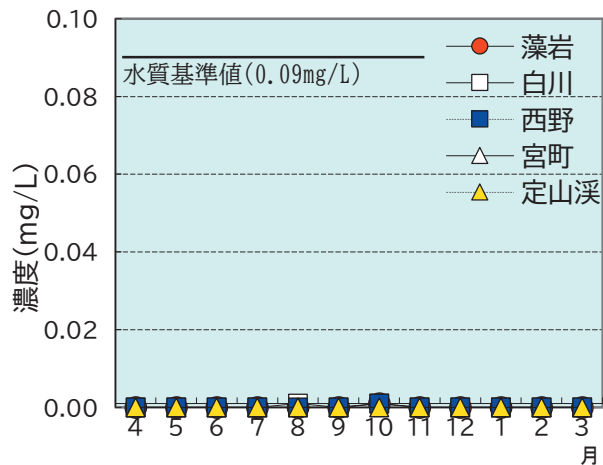


図-16 プロモホルム

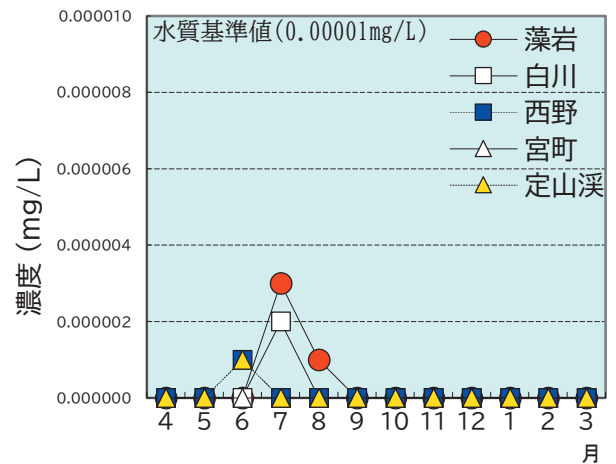


図-17 ジェオスミン

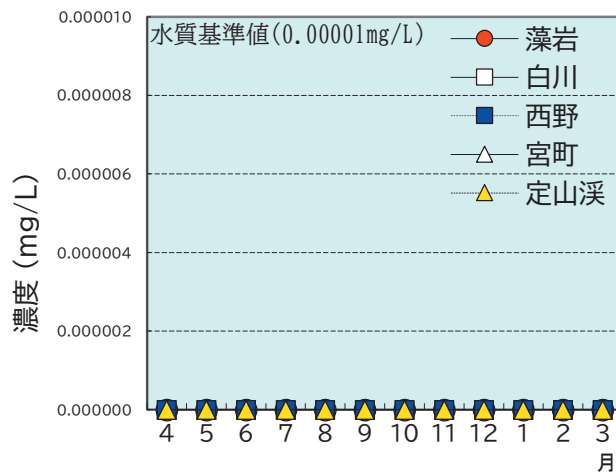


図-18 2-メチルイソボルネオール

※ 定量下限値未満の結果は「0」と表示

表1 水質管理目標設定項目中のおいしさにかかわる水質項目

| 項 目               | 目 標 値      | 給水栓水の平均値 |      |      |      |      |
|-------------------|------------|----------|------|------|------|------|
|                   |            | 藻岩       | 白川   | 西野   | 宮町   | 定山溪  |
| 残留塩素              | 1.0mg/L 以下 | 0.48     | 0.45 | 0.44 | 0.41 | 0.46 |
| 遊離炭酸              | 20mg/L 以下  | 2.6      | 1.8  | 2.7  | 1.6  | 2.1  |
| 有機物(全有機炭素(TOC)の量) | 2mg/L 以下   | 0.6      | 0.6  | 0.5  | 0.5  | 0.6  |
| カルシウム・マグネシウム等(硬度) | 10～100mg/L | 35       | 35   | 43   | 36   | 34   |
| 蒸発残留物             | 30～200mg/L | 100      | 80   | 110  | 90   | 70   |